

Image_processor Ver. 2010.07.10 説明書

0. 著作権と利用許諾の表示

あまり、このようなことは記述したくないのですが、一応、諸先輩の助言に従って以下の通り表示します。

このプログラムは著作権によって保護されています。

「利用許諾について」:

このプログラムは利用者の全責任において、危険性を全て覚悟して利用して下さい。

これに関して、このプログラムの作成者は一切責任を負いません。

これに同意できる人だけがこのプログラムを利用できます。

もし、これに同意できなければ、このプログラムを利用できません。

著作権保有者: Taka, JA2GRC/3

1. 同梱ファイル

Image_Processor_20100710.zip には以下のファイルが含まれます。

Image_Processor.exe	実行ファイル
Image_Processor_Quick_Guide.pdf	この説明書
EZCalls.exe	ダミーの EZCalls
readme_DummyEZCalls.txt	ダミーの EZCalls の説明書

2. インストールと実行

Image_Processor.exe の実行には以下のパソコン環境が必要です。

Microsoft Windows XP SP3

Microsoft .NET Framework 3.5 SP1

Microsoft .NET Framework 3.5 Language Pack SP1 - 日本語

Windows XP SP2 に Microsoft .NET Framework 2.0 でも、動いたという報告がありますが、充分確認していません。

また、Windows Vista / 7 には最初から Microsoft .NET Framework 3.5 が導入されているようです。こちらも動作については充分確認できていません。

.NET Framework については、ウィキペディアなどに分かり易く解説されています。従来の VB ランタイムに相当する物です。

WindowsXP を SP3 にアップしていても、.NET Framework 1.0 のままの場合が多いです。「プログラムの追加と削除」でバージョンを確認してください。今後とも、Microsoft の主力となる環境ですので、アップしていても損はありません。

.NET Framework 3.5 のインストールには、MicrosoftUpdate を利用すると安全です。

- ・ MicrosoftUpdate の「ようこそ」画面から「カスタム」を選択
- ・ 左のサイドバーの WindowsXP を選択
- ・ メイン画面の Microsoft Windows XP の一覧から

Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 および .NET Framework 3.5 ファミリ更新プログラム(KB951847) x86 を選択し、ダウンロード・インストールする。

- ・インストールにはかなりの時間（数分～十数分）がかかります。ハングアップしたかと勘違いしますが、じっと待っておればインストールが始まります。
- ・後は、メッセージに従って、再起動すれば完了です。
- ・「プログラムの追加と削除」で確認すると、.NET Framework 3.5 だけでなく、途中のバージョンもインストールされています。

さて、環境が準備できたら、Image_Processor をインストールしてください。

Image_Processor_20100710.zip を解凍し、適当なフォルダに置いてください。Image_Processor.exe と Image_Processor_Quick_Guide.pdf は、同一のフォルダに置いてください。Image_Processor.exe が置かれたフォルダはワークエリアとして使われますので、R/W 出来るエリアを指定してください。バージョンアップの場合は、従来バージョンのファイルに上書きインストールしてください。ダミーの EZCalls については、ダミーの EZCalls の説明書をご覧ください。EasyPal の新しいバージョンには不要ですが、旧バージョンの為に同梱しておきます。

Image_Processor.exe を実行すれば起動します。デスクトップにショートカットなどを作成しておけば便利だと思います。

バージョンアップの場合は最初に起動した時に旧バージョンの Image_Processor.ini を新しいバージョンのフォーマットに変換します。古い Image_Processor.ini ファイルは、Image_Processor_20100707.ini などと、古いバージョンの日付を付けた名前に変更して、バックアップが取られます。

次の起動からは、新しいフォーマットの Image_Processor.ini を読み込みます。

バージョンアップでなく、新たにインストールした時は Image_Processor.ini が存在しないので、初期値で Image_Processor.exe と同じフォルダに作成されます。次の起動からは、設定された値で起動します。

なお、Ver. 2009.04.19 以前のバージョンからのバージョンアップは、画面のサイズが変更になったり、マクロが新たに追加されているので、Image_Processor.ini ファイルを初期値で作成した方が良いでしょう。その場合の手順は、以下の通りです。

- ・一旦、バージョンアップ手順で、古い Image_Processor.ini ファイルを保存する。
- ・一旦終了し、Image_Processor.ini ファイルを削除して立ち上げ直す。

これで、画面サイズやマクロ設定などが新しいバージョンに対応した設定になります。

3. アンインストール

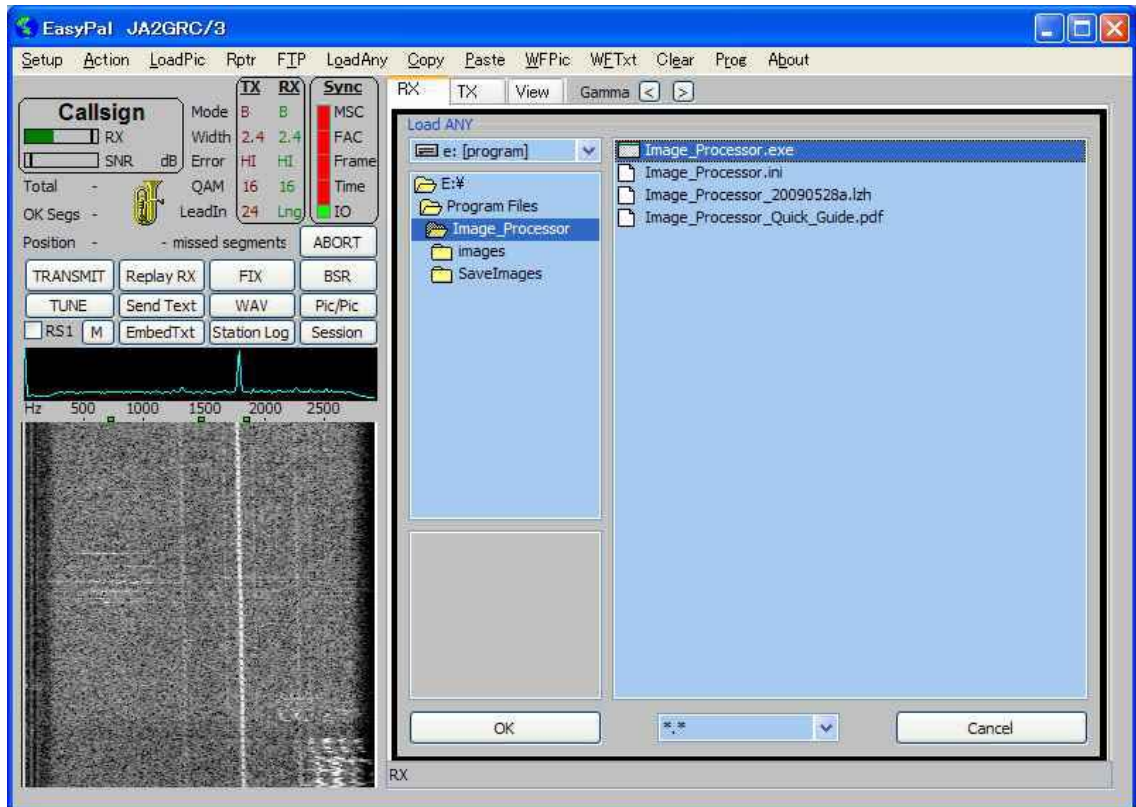
インストールした全てのファイル、および、作成された Image_Processor.ini および Image_Processor_20100710.ini、画像保存フォルダ SaveImages 等を削除してください。レジストリは使っていません。

4. 設定

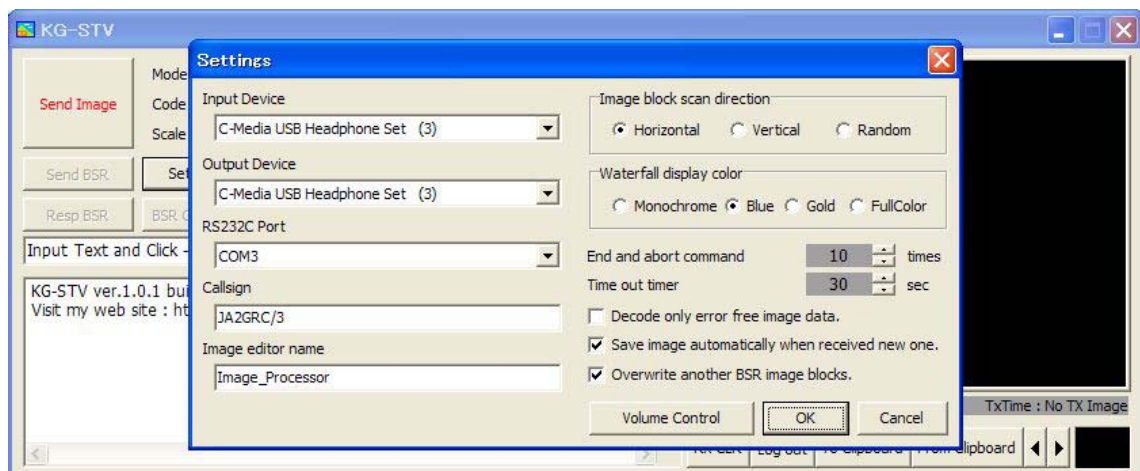
・通信プログラム側の設定

通信プログラムに、Image_Processorwo 認識させるための設定です。

EasyPal の場合は、EasyPal 画面の左上にある Callsign を右クリックすると、以下の様な設定画面が出ますので、Image_Processor を置いてある場所を指定します。OK をクリックすると、確認ダイアログが出ますので、これも OK をクリックします。



KG-STV の場合は、Image editor name の欄に、Image_Processor と入力します。



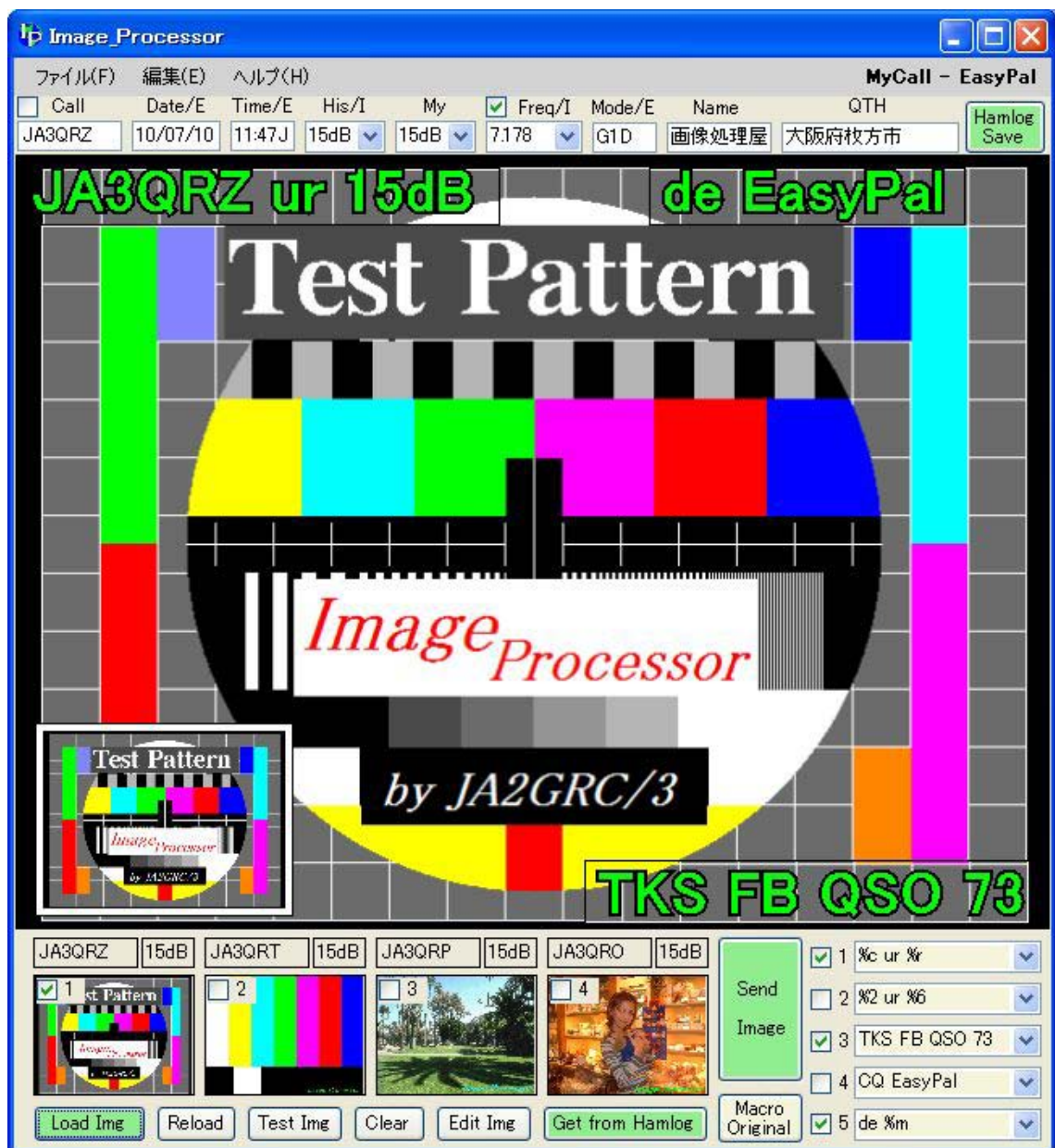
・最初に起動した時の画面

以下の画像の様な画面が立ち上がれば、正常に起動しています。

上から、メインメニュー、ログデータ、メイン編集画面が配置されています。

下の左にはサブ画面（受信画像）と各種操作ボタンが配置されています。

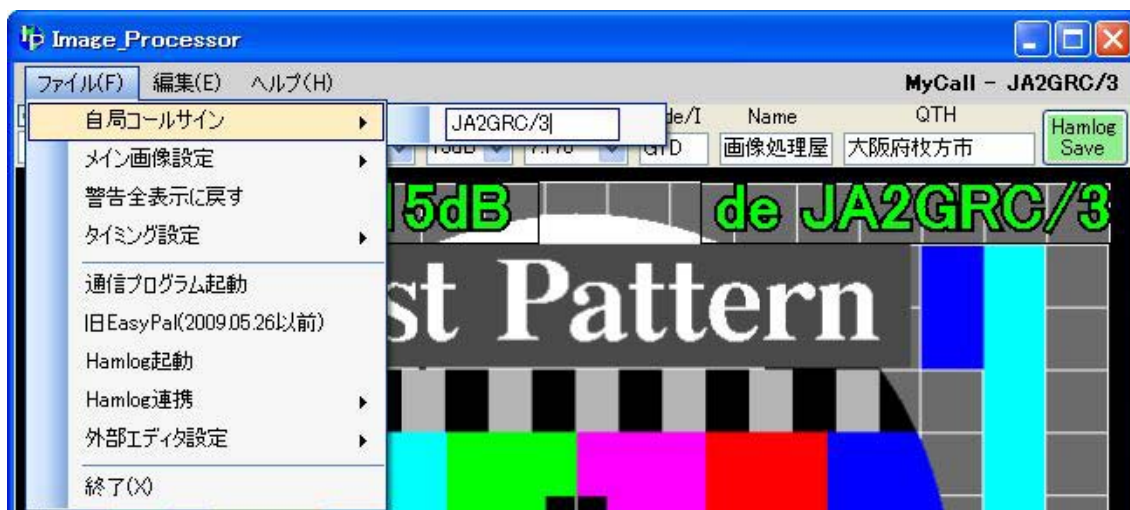
右側は、通信プログラムへの転送ボタンと、貼り付け文字入力ボックスです。



- ・最初に設定する内容

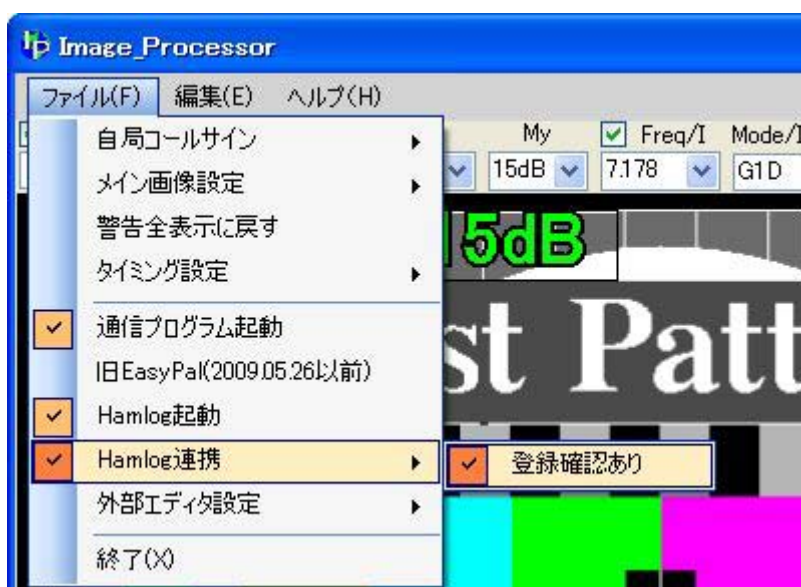
自局コールサインの設定

メインメニューの「ファイル」－「自局コールサイン」で表示される枠に入力します。



通信プログラム起動、旧 EasyPal(2009.05.26 以前)、Hamlog 起動、Hamlog 連携の設定

通信プログラム起動と Hamlog 起動はチェックを付けると、それぞれの実行ファイル位置を設定する画面が表示されますので、EasyPal.exe 又は kgstv.exe の位置、および、Hamlogw.exe の位置を設定してください。通常は、C:\Program Files\EasyPal¥や C:\Program Files\kgstv¥、あるいは C:\Program Files\Hamlog¥の下にあります。が、ユーザーによっては違う場合もあります。



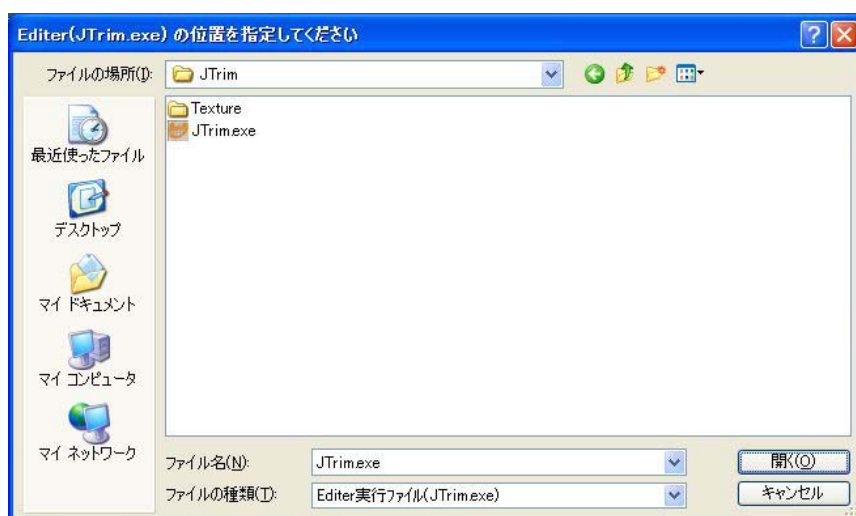
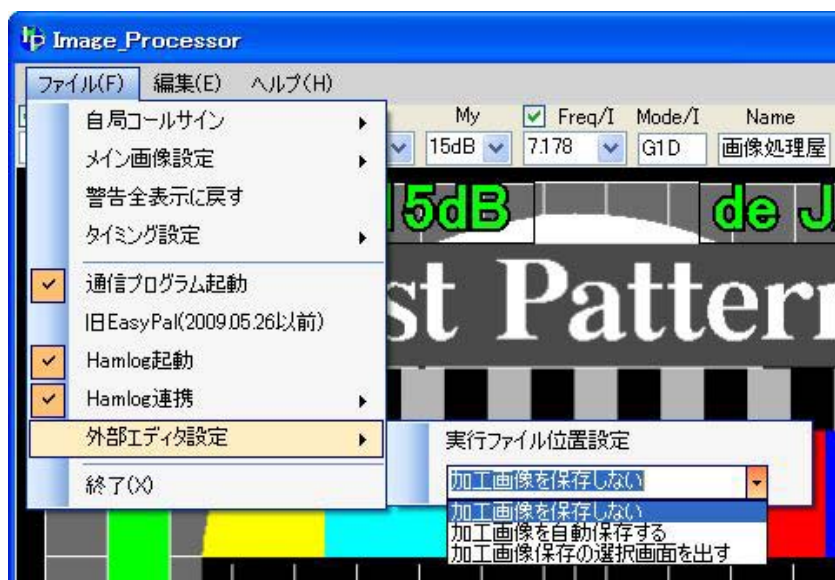
旧 EasyPal(2009.05.26 以前)は古いバージョンの EasyPal を使用する場合にチェックを付けてください。古いバージョンでは、コールサインのみの転送になります。また、ダミーの EZCalls が起動されます。なるべく、EasyPal の 2009.07.09 以降の

新しいバージョンにアップして、このチェックを外して使ってください。新バージョンでは、コールサイン、日付、時刻、SNR、モード、バンドが転送され便利です。

Hamlog 連携は通信プログラムからデータが送られてきた場合や、Hamlog Save ボタンを押した時に、Hamlog ヘデータを転送するかどうかを設定します。また、登録確認ありをチェックしておくと、Hamlog に登録する前に確認画面が出ます。

外部エディタ設定 – 実行ファイル位置設定

外部エディタとして、MS ペイントと共通のコマンドインタフェースを持つ任意の画像エディタを設定できます。推奨の画像エディタは、鈴木理弘氏の作成された JTrim です。フリーで十分な機能を持っており、多くの使用例がネットで紹介されていますので、すぐに使えるようになります。



メニューをクリックしますと、外部の画像エディタの実行ファイルの位置を設定するダイアログが表示されますので、ここに、インストールしてある実行ファイル位置を設定します。

JTrim のサイト : <http://www.woodybells.com/jtrim.html>

使用例のサイト : <http://sachikos7.web.infoseek.co.jp/jtrim.htm>
<http://www5f.biglobe.ne.jp/~ayum/gazouhenkan/jtrim/index.html>
<http://www5f.biglobe.ne.jp/~ayum/ring/jtrimring.html>

なお、Windows 標準のペイントを使う場合は以下のアドレスを設定します。

C:\WINDOWS\system32\mspaint.exe

外部エディタ設定 – 加工画像の保存処理

外部エディタで加工し終えた画像の保存処理を設定します。 加工した画像を再利用したい時には保存しておくと便利です。

加工画像を保存しない： なんのメッセージも出さずに、保存もしません。

加工画像を自動保存する： 自動的に加工画像を保存します。

加工画像保存の選択画面を出す： 毎回、選択画像を出して確認します。

「加工画像保存の選択画面を出す」を選択した時は、外部エディタよりコントロールが戻った時に以下の画面がでますので、どちらかを選択してください。



保存する場合は、[Load Img]で設定したフォルダに、日時付きの以下の様なファイル名で保存されます。

_Clip_20100313_153423.jpg

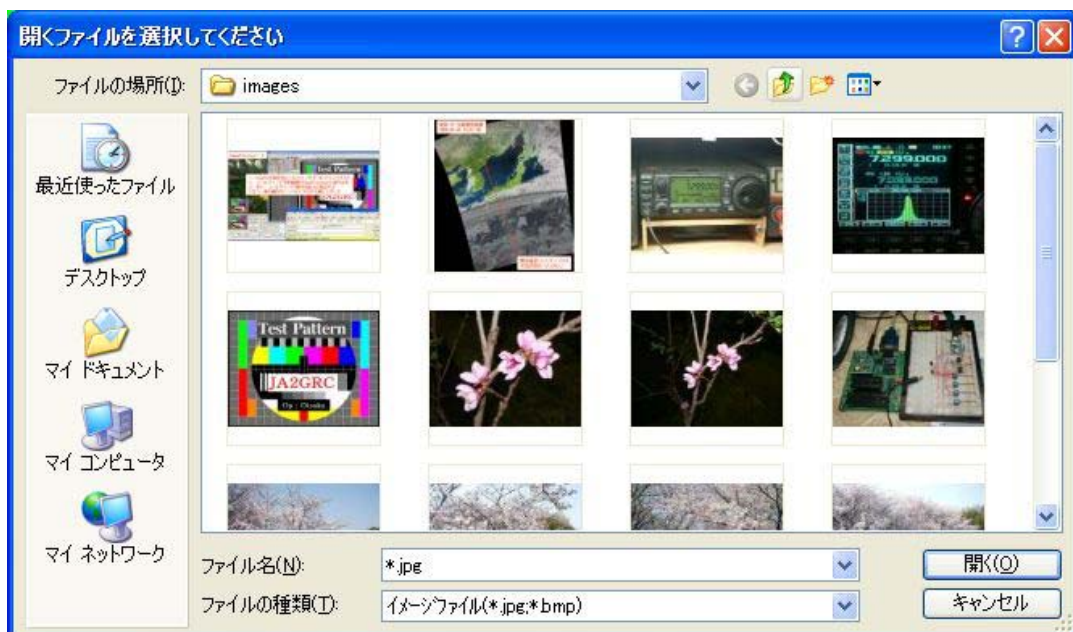
画像ファイルを読み込むフォルダの設定

メイン編集画面に取り込む画像ファイルの位置を指定します。 画像ファイルの有るフォルダなら何処でも指定できますが、Image_Processor をインストールしたフォルダの近くに専用フォルダを作成しておくと思えます。

画面の左下にある [Load Img] ボタンをクリックすると、次ページの様なダイアログが出てきますので、画像フォルダの位置を設定します。

画像ファイルを選択して、[開く] をクリックすると、一旦、画像がロードされますが、これで、画像用のフォルダが設定されます。

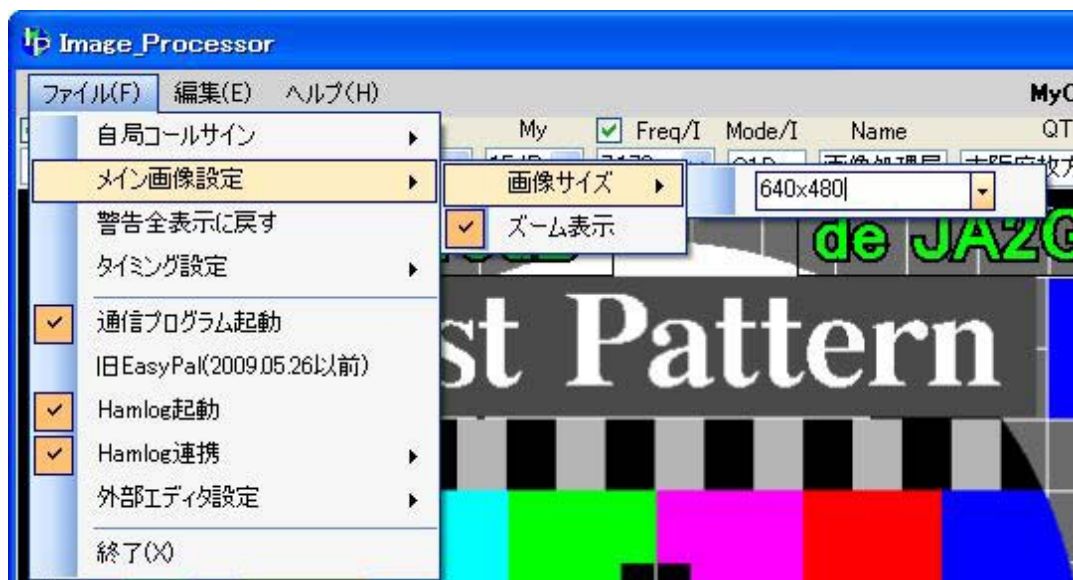
なお、このダイアログは、サムネイル表示（縮小版）でファイル名が表示されませんので、最初に画像フォルダを設定する時は、右上の表示設定より [詳細] 表示を選択して操作した方が便利です。 次回からは、また、サムネイル表示（縮小版）に成ります。



• その他の設定

その他の設定は、必要に応じて設定してください。最初は初期値で大丈夫だと思います。

メイン画面設定



メイン画面の画像サイズ、ズーム表示の設定を行います。メイン画面は 640x480 画素の表示エリアを持つ編集用画面ですが、画像サイズ、ズーム表示の設定により動作が異なります。

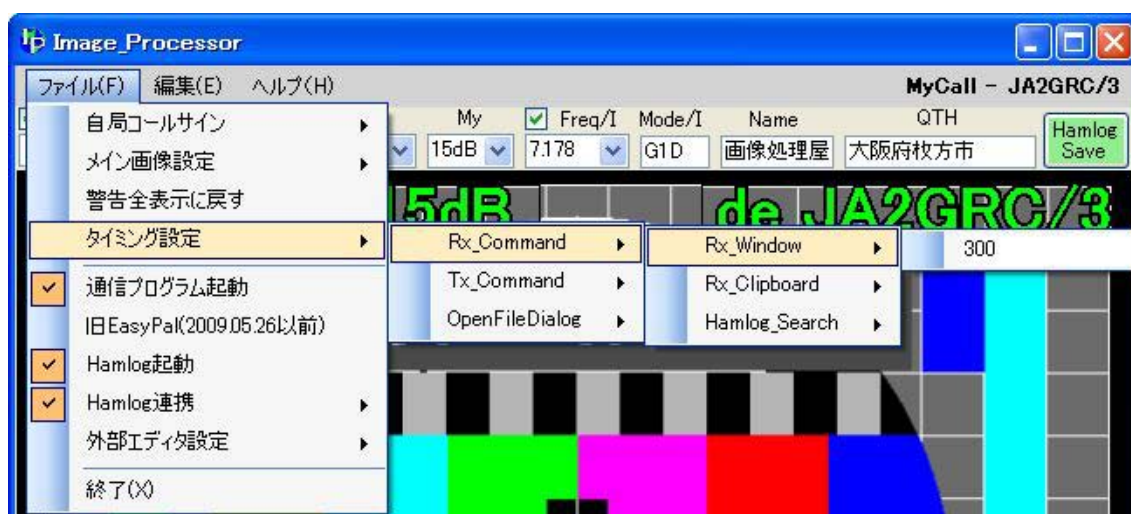
画像サイズ

どのようなサイズの画像でも読み込んだ時点で、画像サイズで指定した画素数の画像として編集されます。画像サイズの変換には高品質バイキュービック法を用いて拡大縮小処理を行っており、画質の劣化を最小限に抑えています。通信プログラムへ送る時の画像は、ここで指定した画素数の画像になります。読み込む画像のアスペクト比が、画像サイズで指定した画素数と違う場合は枠の内側にはまるサイズに拡大縮小され、残りのエリアは黒で塗り潰されます。なお、一度、320x240などに設定して、1024x768などに戻すと、画像解像度が下がりますので、サイズを変更した時は、原画を再ロードしています。また、大きなサイズを使う時は、通信プログラム側の設定も大きな画像を受け入れられる様に設定していないと、希望の画素サイズはロードされません。

ズーム表示

チェックが付いていると、どのような画像サイズの画像でも、枠に合うサイズに拡大縮小して表示されます。但し、取り扱う画像は画像サイズで指定した画素数として取り扱われます、あくまでも表示だけの拡大縮小です。チェックが付いていない時は、表示の為の拡大縮小はしません。枠を超える画像の時は、メイン編集画面の縦横にスクロールバーが現れます。

タイミング設定（タイミング入力枠の単位は、いずれも ms です）



RX_Command-Rx_Window:

受信時に通信プログラムの探索指示を指定して、安定するまでの時間

Rx_Command-Rx_Clipboard:

受信画像読み出しコマンドで画像がクリップボードに安定するまでの時間

Hamlog Search

Hamlogへコールサインを送って、データ検索が終わるまでの時間

TX_Command:

送信時に通信プログラムの探索指示を指定して、安定するまでの時間

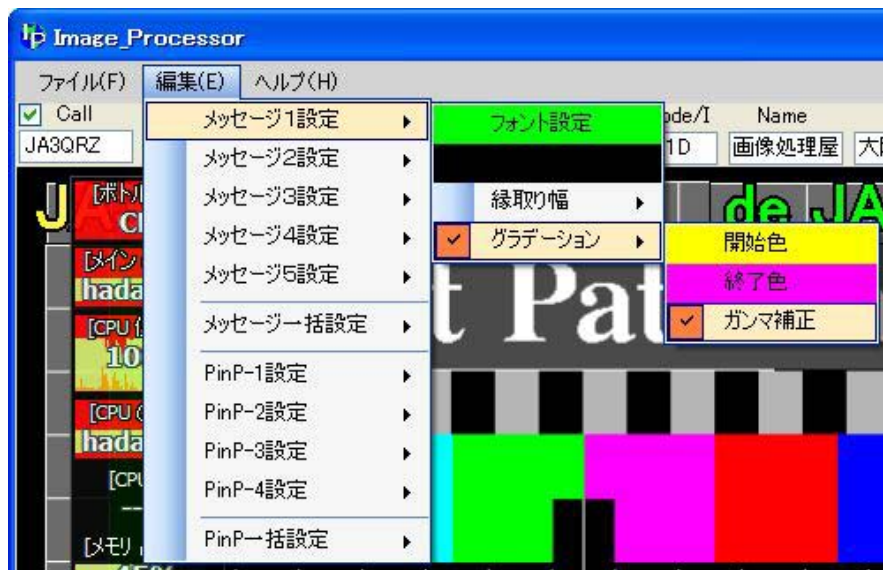
OpenFileDialog:

Load Img をクリックし、ダイアログが開いて縮小版コマンドを出すまでの時間

終了

全ての動作を終了させます。

各メッセージ・貼り付け設定



各メッセージ設定ーフォント設定

貼り付け文字のフォントを指定します。フォントの種類、スタイル、サイズ、色が指定できます。設定したフォントの内容は記憶されます。プルダウンメニューの背景色は設定したフォントの色になります。

各メッセージー縁取り色（黒くなっていますが、マウスを乗せるとメニューが見えます）

貼り付け文字の縁取り色を指定します。この値は記憶されます。

各メッセージー縁取り

貼り付け文字の縁取りを指定します。無し、幅1～5を設定できます。

各メッセージーグラデーション

貼り付け文字を、開始色・終了色で指定したグラデーションで塗り潰します。ここにチェックを付けた場合は、フォント設定で指定した色は無効になります。

各メッセージーグラデーションー開始色

貼り付け文字のグラデーションの左端の開始色を指定します

各メッセージグラデーション終了色

貼り付け文字のグラデーションの右端の終了色を指定します

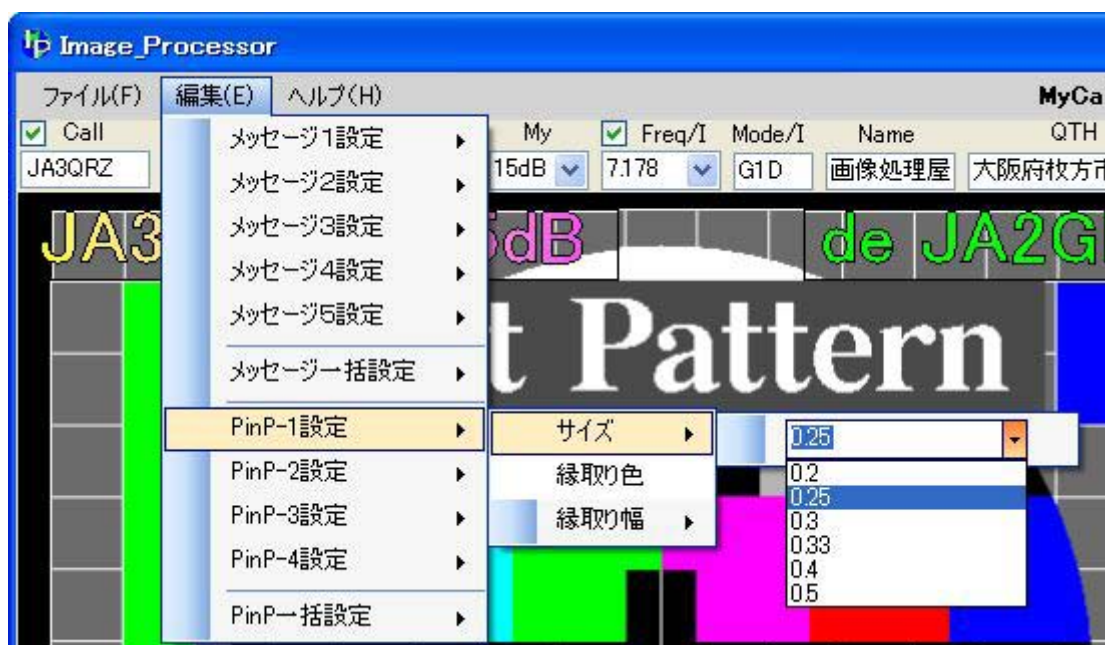
各メッセージグラデーションガンマ補正

ここにチェックを付けると、グラデーションで塗りつぶす時にガンマ補正をかけます。
寒色系の濃い色の時は有効だと思います。 暖色系の時は薄くなるようです。

メッセージ一括設定

各メッセージの設定項目が増えてきたので、各メッセージの設定を同一に設定したい場合はこちらを使った方が便利です。 フォント設定、縁取り、グラデーションをそれぞれ独立で、各メッセージ同一に設定できます。

各はめ込み画像・貼り付け設定



各はめ込み画像サイズ

各サブ画像をメイン画像に貼り付ける時の倍率を調整します。 プルダウンメニューで 0.2、0.25、0.3、0.33、0.4、0.5 が選択できます。 この倍率は、メイン画面のサイズに対する、はめ込み画面の倍率になります。 この値は記憶されます。

各はめ込み画像・縁取り色

各はめ込み画像の縁取りの色を指定します。 プルダウンメニューのこの項目の背景は設定した縁取りの色になります。(初期値は「白」です)

各はめ込み画像・縁取り幅

各はめ込み画像の縁取りの幅を指定します。 プルダウンメニューで、2、4、6、8、10 が選択できます。 単位は画素です。

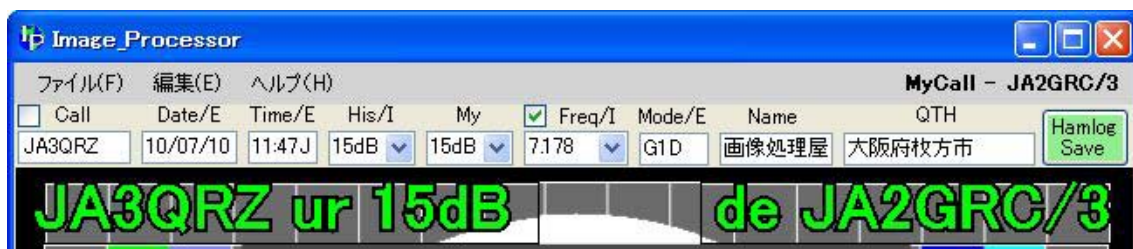
PinP 一括設定

各はめ込み画像設定を一括で同じ設定にする時に使います。 サイズ、縁取り色、縁取り幅をそれぞれ独立に、各はめ込み画像を同一内容に設定できます。

5. 操作の簡単な説明

・受信時操作

- ・通信プログラムで受信終了。
- ・通信プログラムの転送用ボタンをクリックする。 転送用ボタンは、EasyPal の場合は相手局コールサインをダブルクリック。 KG-STV の場合は、Log out ボタンになります。
- ・EasyPal の場合は、Image_Processor が立ち上がっていなければ立ち上がりますので、もう一度、ダブルクリックします。
- ・受信画像と相手局コールサイン他の交信データ(ログデータ)が取り込まれます。
- ・Hamlog がリンクされている時は、ログデータが Hamlog に送出されます。この時は、Hamlog 入力画面にデータが送られるだけで登録はされません。
- ・ログデータは、Hamlog Save ボタンを押すことで、登録されます。



- ・Call の左にあるチェックはデュープチェックです。ここにチェックが入っていると、Call/Date/Time の同じデータは取り込みません。通信プログラムの転送用ボタンを2度続けて操作した時などは同じデータが送られますので、これをブロックすることが出来ます。
- ・Date、Time、His、Freq、Mode は、通信プログラムからのデータを使用するか (/E 表示の時)、Image_processor で設定したデータを使用するか (/I 表示の時) 選択できます。/E と /I の切替は、ラベルをクリックすることで切り替わります。

Hamlog Save ボタン

Hamlog 連携にチェックが入っている時に、ログ欄に表示されている内容が Hamlog へ転送され、登録されます。登録確認ありがチェックされていると、確認メッセージが表示されます。登録確認ありがチェックされていないと、メッセージ無しで登録されます。CI-V 等で周波数を取り込んでいる時は Freq のチェックを外しておく良いと思います。

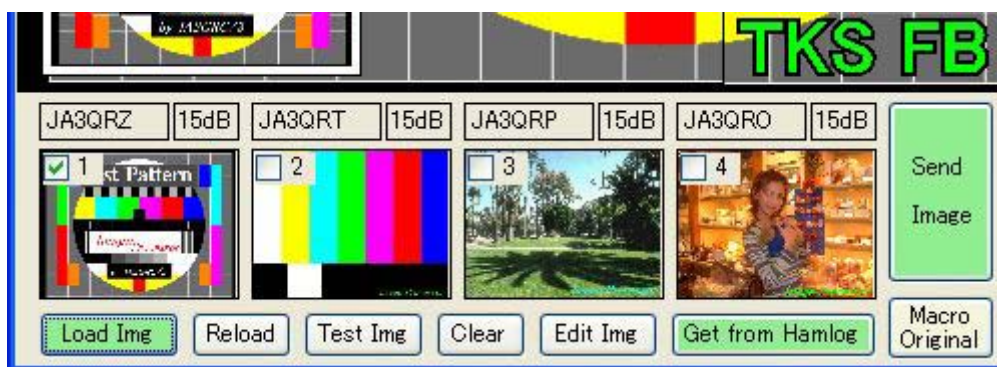
・送信時操作

- ・画像をロードします。
- ・文字を貼り付ける。貼り付けチェックが付いている時は自動的に貼り付く。
- ・受信画像を貼り付ける。貼り付けチェックが付いている時は、自動的に貼り付く。
- ・通信プログラムへ画像を転送します。

なお、文字や受信画像は編集時には、メイン画像に貼り付いておらず、通信プログラムへの転送時に自動的に貼り付けられて送られます。

サブ画像（受信画像）

下の画面で、左側が新しく、古い画像は右側にシフトしていきます。
画像の左上にあるチェックを付けると、メイン編集画面上に貼り付けることができます。メイン画面上では、マウスで左クリックすることによりドラッグすることができますので、自由な位置に貼り付けることができます。



画面の上にあるコールサインと SNR は、通信プログラムから画像を受け取った時の相手局コールサインおよび SNR の履歴です。このコールサインおよび SNR 履歴は、メッセージ入力欄でマクロを使って、メイン編集画面上に貼り付けることができます。ラウンド QSO 等の時に、複数局の画像とコールサインおよび SNR を貼り付ける時などに便利です。

・各ボタンの説明

Load Img ボタン

画像ファイルを取り込んで、メイン画面に貼り付けます。ファイル選択用のダイアログが表示されますので、任意の画像を選択することができます。一旦選択したファイル位置は記憶されますので、次回からの選択は楽です。再起動時にも記憶されています。表示方法を変えたい時は、ツールバーの表示にあるプルダウンメニューで、好みのものを選択します。

Reload ボタン

Load Img ボタンでロードされた画像を、再ロードします。編集済みの画像は破棄されます。Edit Img での編集を元に戻したい時などに使います。

Test Img ボタン

次のページの画像の様なテスト画像を、メイン編集画面に読み込み、テストログをログデータ欄に読み込むことができます。テストパターンを送ったりする時に便利です。

なお、各画像の原画の仕様は以下の通りです。通信プログラムのデータ量確保に応じてディテールの表現が変化しますので、データ量設定時の解像度のチェックにも使えます。

- ・テストパターン：10kB、640x480、PNG 形式、圧縮レベル 9
- ・カラーバー：12kB、640x480、JPG 形式、画像品質 80%
- ・風景：266kB、1024x768、JPG 形式、画像品質 80%
- ・女性：181kB、1024x768、JPG 形式、画像品質 80%



Clear ボタン

メイン画面とサブ画面、および、ログデータをクリアします。

Edit Img ボタン

所定の入力文字で間に合わない時や、画像の加工をしたい時に、外部画像エディタを起動して画像の加工編集が出来ます。 外部画像エディタの終了は「上書き」して終了してください。そうすると、加工・編集済みの画像がメイン画面に張り付きます。

JTrim を使った場合の簡単な編集の例

JTrim を使って画像に加工を加えた例を紹介します。 JTrim には、これ以外にも、豊富な機能が備わっています。以下のサイトも参考にしてください。

JTrim のサイト : <http://www.woodybells.com/jtrim.html>

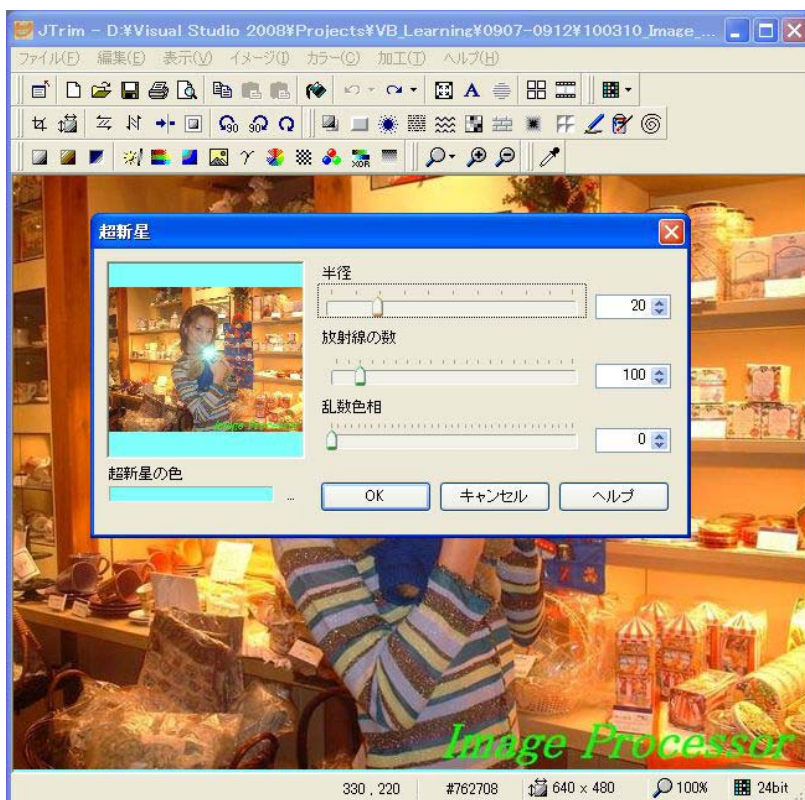
使用例のサイト : <http://sachikos7.web.infoseek.co.jp/jtrim.htm>

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~ayum/gazouhenkan/jtrim/index.html>

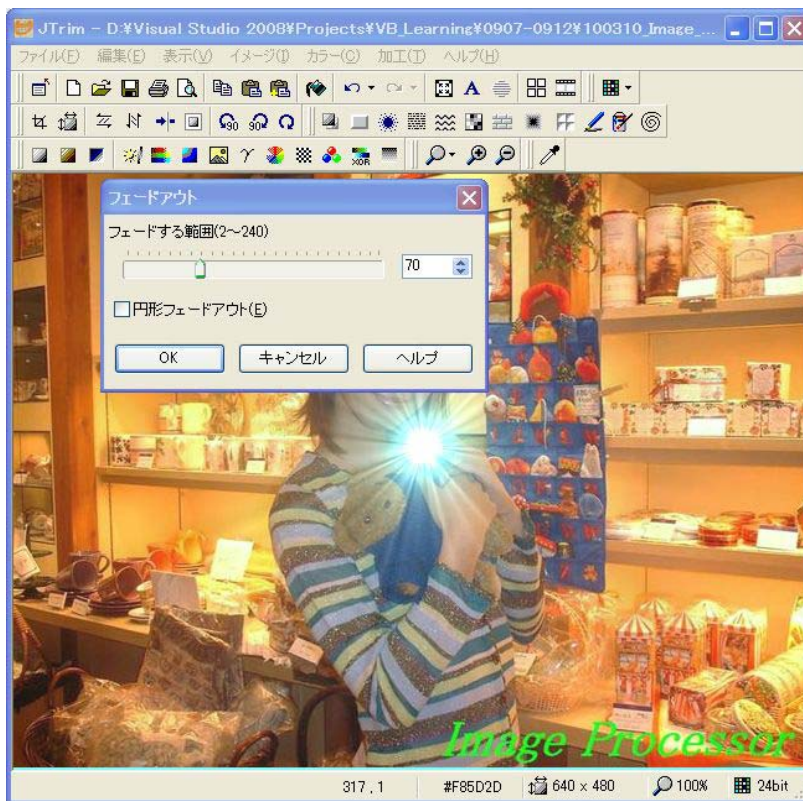
<http://www5f.biglobe.ne.jp/~ayum/ring/jtrimring.html>

紹介する例は、テスト画像に加工（超新星、フェードアウト、立体枠を付ける）および、文字入れ、合成の機能を使って加工した物です。 とりあえずは、これだけ覚えれば遊べます。 後は追々、上のサイトで勉強してください。

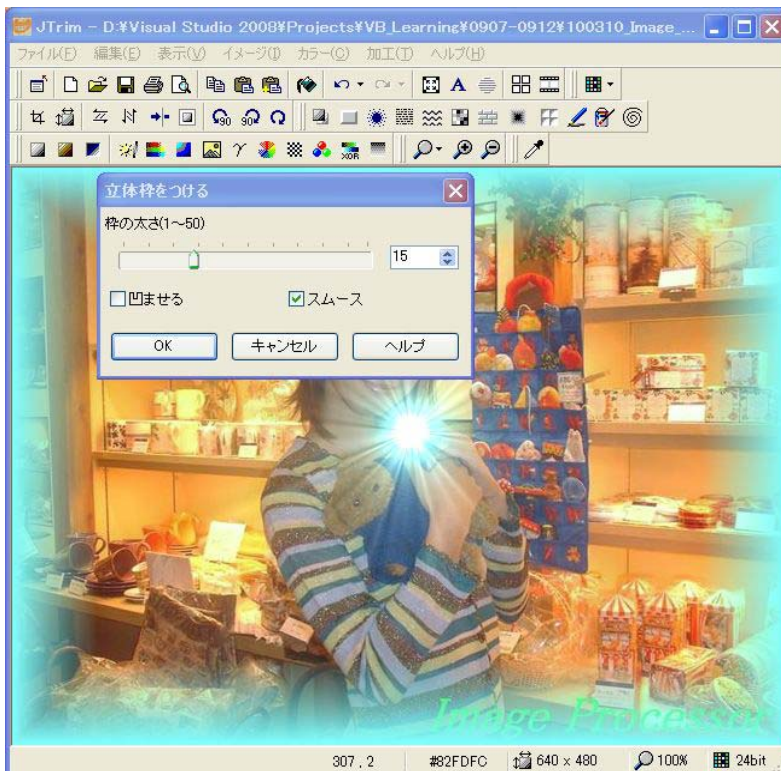
まずは、起動した JTrim より、[加工]－[超新星]を選択、下記で OK をクリック。



次に、同じく、[加工]－[フェードアウト]を選択、下記で OK をクリック。

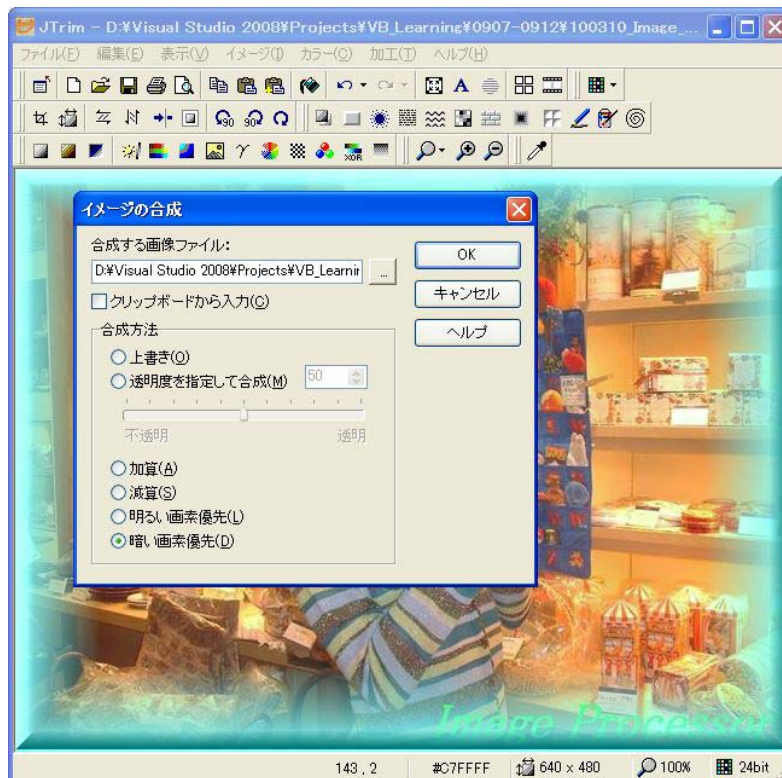


更に、同じく、[加工]ー[立体枠をつける]を選択、下記で OK をクリック。

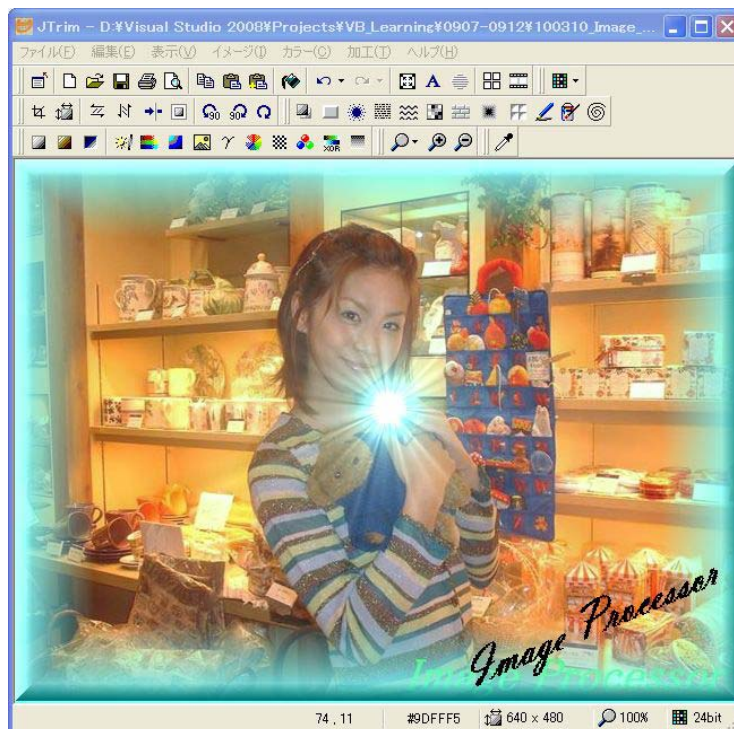


次に、あらかじめ、[編集]ー[文字入れ]、および、[イメージ]ー[任意角度回転] で作成しておいたサインと、これまでに加工した画像とを、[編集]ー[合成]を実施、下記で OK

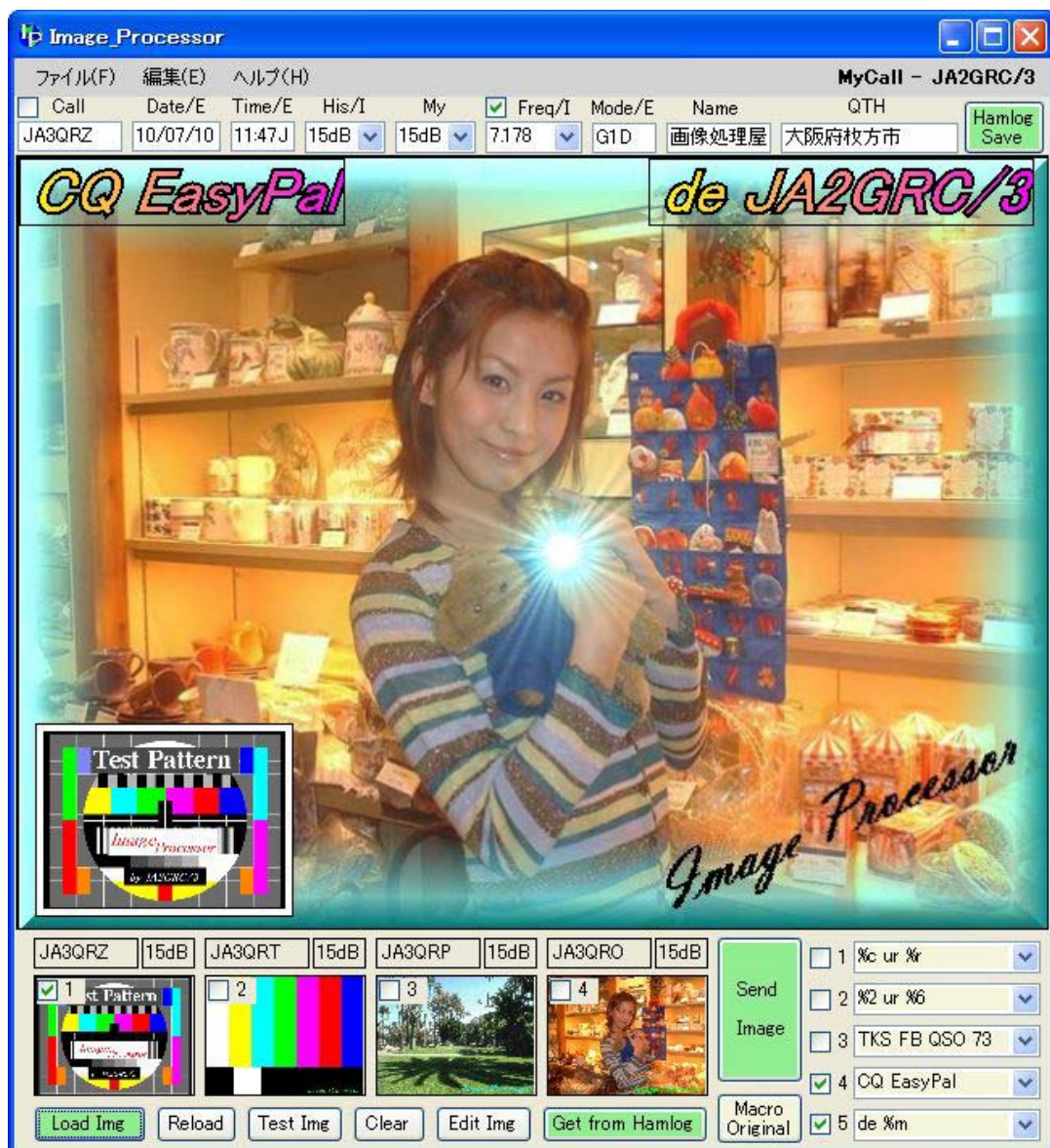
をクリックします。



これで、外部エディタ JTrim での画像加工は完了です。



最後に、[ファイル]―[上書き保存]、および、[ファイル]―[アプリケーションの終了]、で外部エディタを終了すると、Image_Processor のメイン画面に加工した画像が貼り付けられます。慣れると、[×]―[はい]の方が速いです。



Get from Hamlog ボタン

Hamlog から Name や QTH データを取り込みます。 通常は EasyPal からのデータ取込と同時に自動的に実行されます。 このデータはマクロを使って貼り付けれます。

Send Image ボタン

メイン編集画面の画像に貼り付け文字や貼り付け画像を合成して、EasyPal の TX タブに送り込んで貼り付けます。

Macro Original / Expand ボタン

次に説明する、貼り付け用メッセージ入力欄の表示を、マクロ表示にするか、マクロ展開表示にするかを切り替えます。



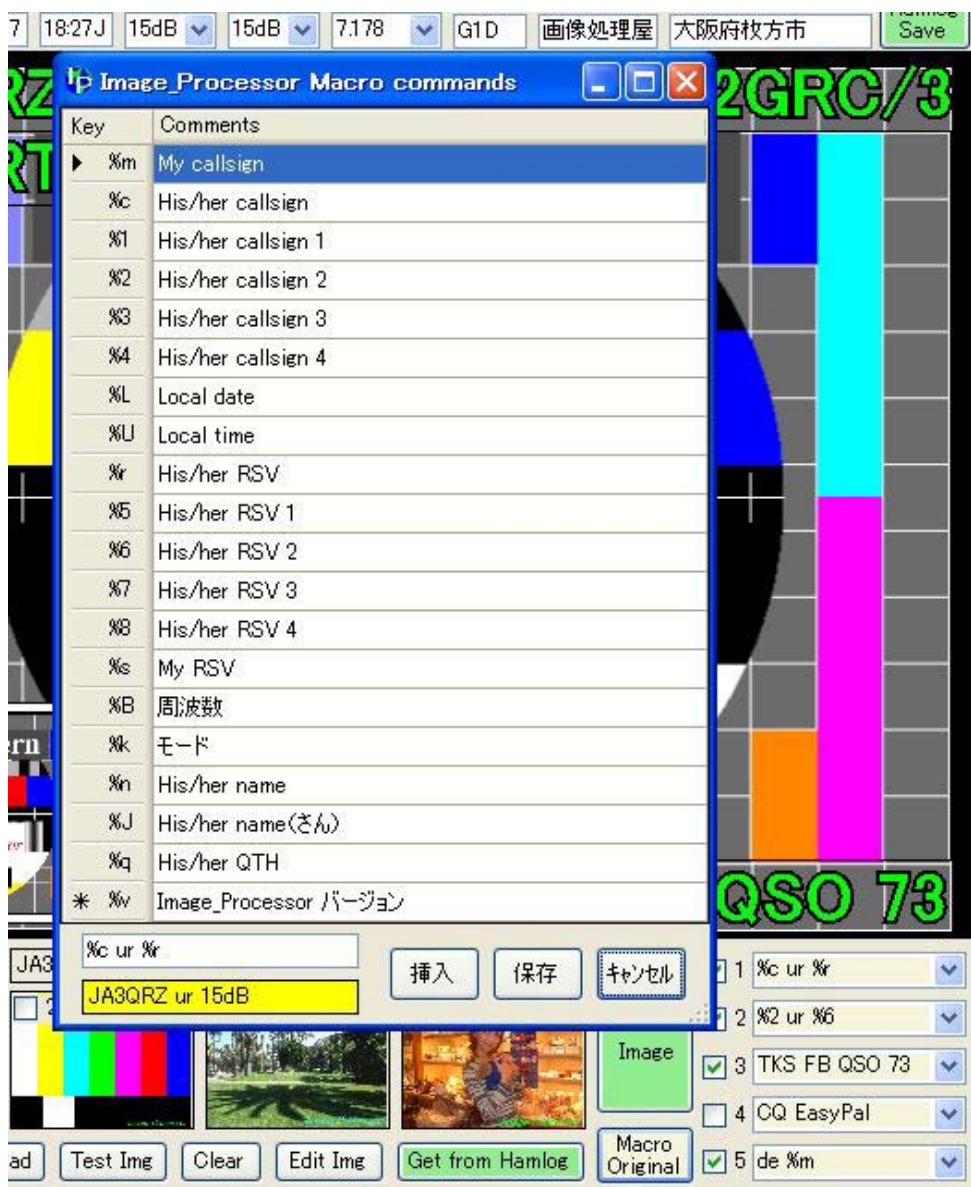
Macro Expand の時は注意喚起のために、ボタンの色と貼り付け用メッセージ入力欄の背景色を黄色に変わります。

また、Macro Expand の時は、貼り付け用メッセージ入力欄の動作が違うことを警告するメッセージも表示します。

• 貼り付け用メッセージ入力欄

右下の入力欄に文字を入力して、入力欄の左にチェックを入れると、文字をメイン編集画面に貼り付ける事が出来ます。

入力欄には、8つのフレーズまで記憶することが出来ます。再起動してもこの入力内容は記憶されています。入力枠のプルダウンボタンを押した時は、新しい入力フレーズが一番上に表示されます。入力枠に文字列を入力し、マウスの中ボタンを押した時に記憶されます。単に入力枠に入力しただけとか、プルダウンとマウスで選択しただけの時は記憶内容は変わりません。マウスの右ボタンクリックで、次に説明するマクロ入力支援ダイアログが表示されます。



なお、Macro Expand 表示（黄色背景）の時は、入力枠の変更およびプルダウンによる項目の選択は可能ですが、マウスの中ボタンによる記憶と、マウス右ボタンによるマクロ入力支援用ダイアログ表示のそれぞれの機能は働きません。記憶用のセパレータとして「, (半角カンマ)」を使っていますので、「, (半角カンマ)」は使用できません。

メイン画面に表示された位置は、マウス左ボタンで掴んでドラッグすることにより、任意の位置に移動できます。文字の変更は入力時点で反映されます。フォントの変更は変更した時点で、縁取りの変更はチェックを変更した時点で、それぞれ反映されます。

マクロ

文字入力枠にはマクロが使えます。マクロは [%n] で決められています。直接入力しても良いですが、マクロ入力支援用のダイアログを使うのが便利だと思います。文字入力枠上で、マウス右クリックすると支援ダイアログが表示されます。マクロ入力支援用のダイアログ上で使いたいマクロを選択して [挿入] をクリックすると、ダイアログ上の入力欄にマクロが記述されます。同時に黄色のマクロ展開表示欄に入力文字のマクロ展開内容が表示されます。[保存] でメイン画面の入力欄に反映されます。[キャンセル] では何もせずにメイン画面に戻ります。

なお、表示されているマクロ以外の文字と%の組み合わせは、単に文字として処理されます。

初期値で、メイン画面のメッセージ入力欄には標準的なマクロを登録してありますので、プルダウン選択で簡単に使用することができます。

• Msg、チェック付きの警告メッセージ



警告メッセージが煩わしい時は、「この警告を表示しない」にチェックを付けておくと、次回から表示されません。このチェックは個別に記憶されます。警告メッセージを元のように表示したい時は、メインメニューの、[ファイル] - [警告全表示に戻す] で全ての警告メッセージを表示するようになります。

• ヘルプメニュー



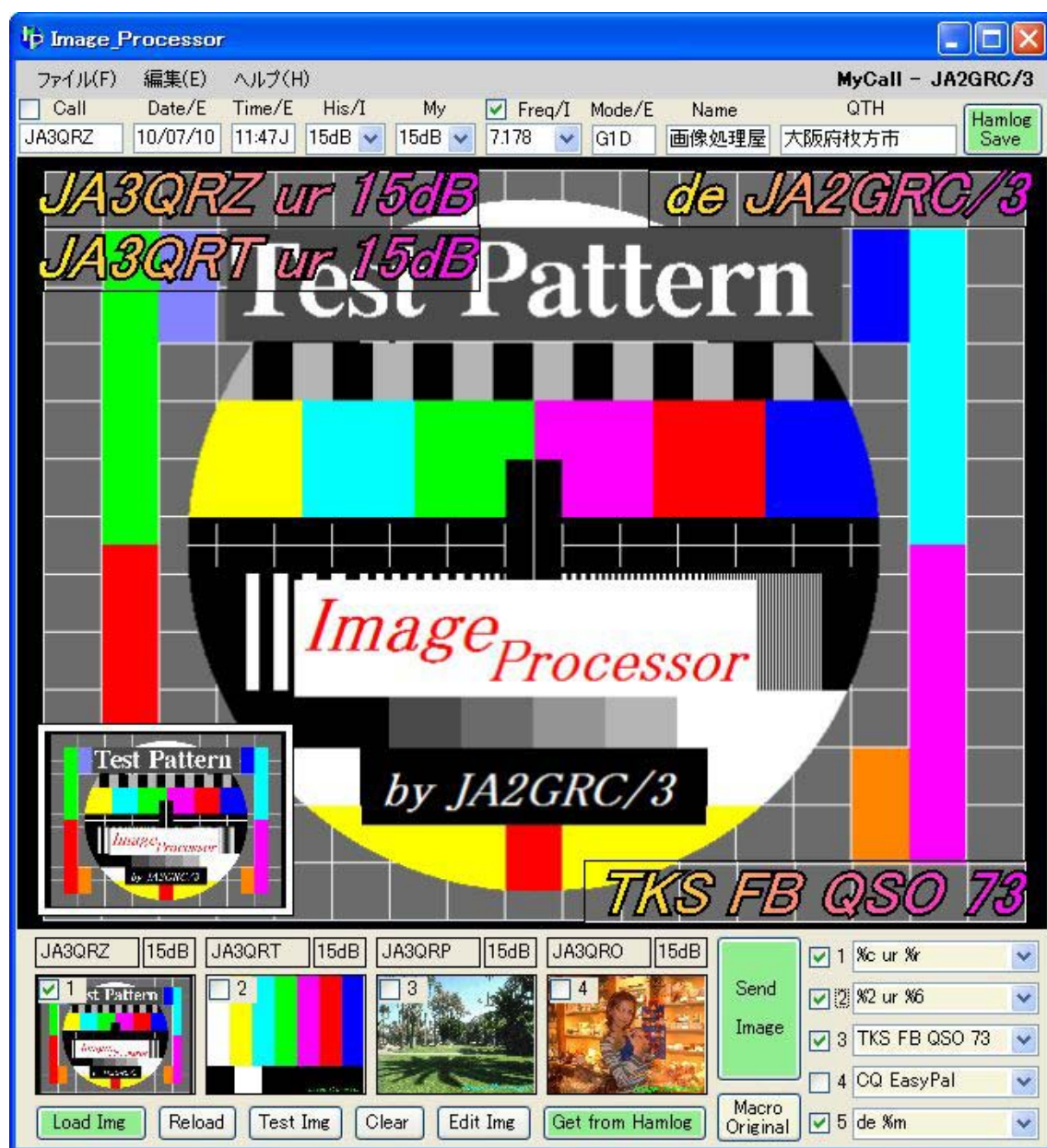
クイックガイド

この説明書を表示します。

バージョン

バージョン、クレジットなどを表示します。

以上、全体の動作画面は、以下のようになります。



5. 既知のバグ

- ・今のところありません。

6. 更新履歴

Ver. 2010.07.10

- ・ フォントを変更すると再起動時にエラーになる事があるバグを修正しました。
- ・ His を His/I または His/E 選択できる様にし、His、My の選択項目に、593、594、595 を追加しました。
- ・ ログの選択、チェックの初期値を実体にあった物に変更しました。

Ver. 2010.07.07

- ・ 通信プログラムとして、EasyPal 以外に KG-STV も選択できる様にしました。
- ・ 今後のパラメータ増加に対応するため、ini ファイルの構造を大幅に改良しました。従来の形式の ini ファイルは自動的に変換されます。

Ver. 2010.03.13

- ・ 外部エディタで加工した画像を再利用できる様に保存機能を追加しました。保存しない、自動保存。確認画面を出す、の選択が出来ます。

Ver. 2010.03.11

- ・ 任意の外部エディタを設定できる様に変更しました。
- ・ メインウインドウのサイズが小さい時にスクロールバーがでる様に変更しました。

Ver. 2009.07.10

- ・ EasyPal 09/JUL/09 に対応して以下の機能を使用できるように変更しました。
- ・ EasyPal とのリンクを直接コマンドでやりとりする様に改良。
- ・ ログデータの一部は、EasyPal からのデータを使用するか、Image_Processor のデータを使用するか選択できる様に変更。
- ・ 旧バージョン EasyPal と新バージョン EasyPal 対応と切り替えれる様に変更

Ver. 2009.06.30

- ・ Hamlog からのデータ読込機能を追加。マクロを使ってメイン画面に貼り付けれます。
- ・ アスペクト比 4 : 3 以外の画像でもアスペクト比を維持して貼り付ける様に変更。
- ・ EasyPal からの取込画像が 1024x768 以上のサイズでも対応出来るように改良。
- ・ 取込画像とコール・SNR がずれる現象を改善

Ver. 2009.06.18(a)

- ・ 貼り付け文字の縁取り方法を改良しました（文字の「身」が擦れない様にしました）。
- ・ 貼り付け文字の縁取り幅を、無し、幅 1 ～幅 5 間で可変出来る様にしました。
- ・ 貼り付け文字の縁取り色を任意の色に設定できる様にしました。
- ・ 入力中のメッセージが保存されないバグを修正しました。

Ver. 2009.06.17

- ・ EasyPal とのリンクを直接コマンドでやりとりする様に改良。**(使用できません)**
- ・ ログデータの一部は、EasyPal からのデータを使用するか、Image_Processor のデータを使用するか選択できる様に変更。**(使用できません)**
- ・ 旧バージョン EasyPal と新バージョン EasyPal 対応と切り替えれる様に変更

(使用できません)

- ・貼り付け文字の縁取り幅を変更できる様に改良
- ・貼り付け文字をグラデーションで塗りつぶせるモードを追加
- ・グラデーションは開始色・終了色・ガンマ補正を設定できる
- ・画像枠の幅と色の設定が出来る様に改良
- ・マクロを展開表示するボタンを追加、マクロ展開表示出来る様に改良
- ・マクロ入力支援ダイアログにマクロ展開表示欄を追加
- ・マクロにモードとバージョンを追加
- ・ログデータ欄にモード欄を追加
- ・EasyPal データのデュープチェックを追加。デュープチェック無しも選択可能
- ・EasyPal とのリンクの関係で My Call の表示位置を変更
- ・SNR 履歴を 4 つまで記憶できる様に改良、マクロコマンドも 4 つまで対応
- ・SNR 変更がリアルタイムに反映しないバグを修正

Ver. 2009.05.28(a)

- ・画面を大幅に変更、常用の操作のみ残し、操作頻度の低いものは隠す
- ・受信画像とコールサインを 4 つまで記憶できる様に改良
- ・貼り付け画像に白の枠を付ける
- ・貼り付け文字や画像のドラッグ時のぎこちない動きを改善
- ・ログデータを独立させる
- ・貼り付け文字にマクロが使える様に改良
- ・EasyPal や Hamlog の起動をスムーズに改良
- ・Hamlog への転送をスムーズに出来る様に改良
- ・画像ロード用のファイルをサムネイル表示に改良
- ・テスト画像・テストデータをロードできる様に改良
- ・アスペクト比が 4 : 3 と違う画像は中心あわせで余白は黒塗りで対応
- ・日本語入力時のメッセージ入力欄の誤動作を解消

Ver. 2009.04.19

- ・貼り付け文字をマウスで掴んでドラッグすることで位置指定が出来る様に改良
- ・文字を貼り付けるか否かはチェックを付けることで判定することに変更
- ・受信画像をマウスで掴んでドラッグすることで位置指定が出来る様に改良
- ・受信画像を貼り付けるか否かはチェックを付けることで判定することに変更
- ・文字と画像は EasyPal への転送時に自動的に貼り付けて転送する方式に変更
従って編集中は貼り付かずに自由に移動できるようになった
- ・画像サイズ変更と文字サイズは独立で設定できる様に変更
- ・特定フォントでエラーが出る現象を修正
- ・ini ファイル読み込み時エラーを修正

Ver. 2009.04.14B (暫定バージョン)

- ・テキストボックスをコンボボックスタイプに変更、8 行記憶できるように改良
- ・サムネイル表示方式のファイル選択法を追加
- ・ini ファイルを変換する時に古いファイルは Image_Processor_20090402.ini の形式で
古いバージョンの日付を入れた名前に変更してバックアップを取る様に変更
- ・EasyPal を起動できる様にチェックを追加

- ・ 警告メッセージは、次回から表示しない様に設定出来るチェックボックス型に変更
- ・ 専用アイコンを作成

Ver. 2009.04.08

- ・ フォント設定を各文字列ごとに独立に設定出来る様に変更
- ・ ini ファイルのバージョン管理を追加。バージョンアップ時に自動変換する様に変更
- ・ 画像サイズ設定を追加、画像を画面サイズに合わせて表示する様に変更
- ・ アイコンを設定
- ・ フォントスタイルを保存できないバグの修正
- ・ フォントカラーを保存できないバグの修正
- ・ 表示モードを追加
- ・ 縦長・横長画像の時に、編集画面中心に配置する様に変更

Ver. 2009.04.02

- ・ 基本機能でのファーストリリース

Ver. 2009.04.01

- ・ 動作環境テスト用リリース

JA2GRC/3

URL: <http://www.ja2grc.idns.jp/>